

平成30年7月27日(金)

夏の終わり

夏の終わりといっても、この暑い夏がまだまだ続くことは明らかであり、何と蒙昧なことかと思われるのが想像に難くないのですが、まさしく夏が終わった日のことを書きたいと思います。

グラウンドに戻ってきたのは、14日の17:00過ぎでしょうか。監督と部長が校長室に挨拶に来て、3年生の部員15名も校長室に来てくれました。

その後、全体ミーティングがあり、18:00ごろグラウンドに出てみると、ベンチに何人か座り、バックネット裏に残りの者達が丸くなって、レフト方面の暮れゆくグラウンドを見つめていました。私は、一緒になってベンチにずっと座っていました。

蝉の鳴き声が聞こえ、そのほかには、暑かった昼の名残がただよい、3年間の締めとして心ゆくまでグラウンドの自分のポジションのレーキかけをして、帰るに帰れず、ベンチに座ったまま、私の前に背をピント張り詰めて座り、無言でずっと土の色を見つめているのです。

この学校に入学が決まって心躍らせながら入部して、スタンド下の1年生部室から始まり、グラウンドをならしてはまた練習し、グラウンドをならして帰宅する。

朝早く、まだ明け切らぬうち、グラウンドをならしては白線を引く。また一日が終わりグラウンドをならし、帰宅し眠るとすぐに朝がきて、坂を上ってグラウンドをならす。

そのうち、ノックも受けるようになり、バッティングもするようになる。非力で手にしびれが残り、腰も回らず腕も上がらない日々もいつか快音が響く手応えとなり、やがて一日一日、期待の胸躍らせ緊張に胸張り裂けそうになり、やがてあつという間に、その日までたどり着いてしまった。

明日もここで同じ日が続くはずだったという思いと、もはや自分はここに入れないという事実とどこに行けばいいのかという不安と迷いと、立ち上がることができず、いつまでもグラウンドを見つめ続ける30の瞳がそこにはありました。

文化祭の間は、クラスにいたのでしょうか。居場所があるか心配しましたが、部室がきれいになって施設もしっかりしていたので、安心していました。

16日の文化祭の後夜祭には、応援団がエールを送り、校歌を何回も歌いました。

何人かは慟哭し、何人かは号泣していました。

後夜祭が終わって、16日の19:00に本当に夏の終わりとなりました。

これまでも何十人、何百人とこの姿を見ては、なにくそまたこの次にと思いを重ねてきました。いつまでこの思いを続けるのかわかりませんが、そんな一人一人の姿をよく見ておこうといつも思っていました。15人の3年生よ。私は君たちのひたむきさを忘れない。